

ピアレビュー委員会（第2部会）

2018年度（対象年度：2017年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	人文学部
--------	------

基準1	理念・目的
-----	-------

総評

0101・0102 学部（学科）の教育研究上の目的と育成する人間像は、根拠資料として提示された「2017年度 学生便覧」並びに「大学ホームページ上の教育研究上の目的 人文学部」において、大学の基本理念・使命・教育目的及び学部の教育研究上の目的と関連させる形で明確に設定されており評価できる。どのような指標・方法で検証を行っているかについての事前質問に対しても、具体的な回答が示され、真摯に対応する姿勢が感じられた。[0101・0102a]

また、教育研究上の目的および育成する人間像は、『学生便覧』（ホームページに公表）と大学ホームページ上の「情報公表」のページにおいて広く社会に公表されており、これらの間の記述の齟齬もなく適切に明示されている。さらに各学科で育成する人物像による履修モデルを提示するなど独自の取り組みもあり、評価できる。

しかし、一方で、日本語日本文化学科・英語英米文化学科・コミュニケーション学科・歴史地理学科は、大学ホームページの「情報公表」の「教育研究上の目的」と学科紹介パンフレットの記述が異なるなどの問題も存在しているが、この点は改善の余地があると判断する。[0102a][0102c]

長所・特色 <箇条書き>

特になし

留意点 <箇条書き>

*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項
【B】・・・検討を要する事項

0102 (1) 日本語日本文化学科・英語英米文化学科・コミュニケーション学科・歴史地理学科は、大学ホームページの「情報公表」の「教育研究上の目的」と学科紹介パンフレットの記述が異なるため、改善が求められる。

【B】

0102 (1) 心理学科の学科紹介パンフレットには、「教育研究上の目的」の記述がされておらず、改善が求められる。【B】

ピアレビュー委員会（第2部会）

2018年度（対象年度：2017年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	人文学部
--------	------

基準2	内部質保証
-----	-------

総評

0203 (4) 教員個々が年度初めに作成する「教育活動重点目標・自己評価シート」における重点目標の設定と、年度末に行う自己評価による振り返りを通じて、学部教育の質の向上と各教員の資質向上に努めていることは評価できる。また、年度末には、設定目標を3段階評価で評価し、成果の総括と達成にあたっての問題点・困難などを記し、課題の把握を行っている点も評価できる。[0203b]

なお、教育活動重点目標・自己評価シートおよび教育活動報告自己申告書からの内部質保証に対するシステムが構築されているところは確認できるが、組織としての外部評価（学内内部評価を含む）を、実施していただきたい。

長所・特色 <箇条書き>

0102 (4) 教員個々の「教育活動重点目標・自己評価シート」は、『魅力ある授業づくり』のため、担当科目の改善など授業方法に関する目標を必須項目とし、「学生の指導、支援活動（勉強、課外活動、就職など）」、「教育の効果を高める新しい試み」、「学内行政上の委員等の活動および関連業務」のうちから1つ程度を選択して目標を設定する形式。

0102 (4) 年度末には、設定目標を3段階評価（充分達成・ほぼ達成・届かず）で評価し、成果の総括と達成にあたっての問題点・困難などを記し、課題の把握を行っている。

留意点 <箇条書き>

*各項に留意点レベルを記入

【A】・・・緊急の改善を要する事項

【B】・・・検討を要する事項

特になし

ピアレビュー委員会 (第2部会)

2018 年度 (対象年度 : 2017 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	人文学部
--------	------

基準4	教育課程・学習成果 (1)
-----	---------------

総評	
<p>0401・0402 人文学部では授与する学位ごとに、卒業認定・学位授与の方針 (DP) を定めて適切に公表しており、それとともに教育課程の編成・実施方針 (CP) も定めて適切に公表されている。</p> <p>また、歴史地理学科では、歴史学と地理学とを2本の軸として、現代の事象や問題を複合的に考察するという本学科の特色が強調されており、科目ナンバリングを導入し、学生の履修指導に活用している点などが評価できる。[0403g]</p>	
長所・特色 <箇条書き>	
特になし	
留意点 <箇条書き>	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし	

ピアレビュー委員会（第2部会）

2018年度（対象年度：2017年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	人文学部
--------	------

基準4	教育課程・学習成果（2）
-----	--------------

総評

0404 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うためアクティブラーニングの要素を多く取り入れた教育方法を実践しており、さらにその検証のためにシラバスの第三者点検を行い、必要に応じて科目担当者に修正を求めている点が評価できる。シラバスと授業内容との整合性の確保については、事前質問を受けて、学生アンケートでの確認といった具体的な点検方法が追記された。

0405 学位論文審査を副査制度・複数教員による口頭試問や卒業研究発表会などにより実施している点に人文学部の特徴が表れているが、学位論文審査における評価基準方法の詳細を明文化・公表して客観性を確保することが今後必要である。

長所・特色 <箇条書き>

0405 学位論文審査を副査制度・複数教員による口頭試問や卒業研究発表会などにより実施している点。

留意点 <箇条書き>

*各項に留意点レベルを記入

【A】・・・緊急の改善を要する事項

【B】・・・検討を要する事項

0405 学位論文審査における評価基準方法の詳細を明文化・公表して客観性を確保することが求められる。
【B】

ピアレビュー委員会（第2部会）

2018年度（対象年度：2017年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	人文学部
--------	------

基準4	教育課程・学習成果（3）
-----	--------------

総評	
0406	人文学部では学生の学習成果を測るために、GPA（Grade Point Average）制度を導入し、成果の確認および学習指導に用いており、単位取得率の低い学生には、当該学期末から翌学期始めにかけて面談を行って面談記録を残すなど、個別指導を行っている点が評価できる。
0407	卒業認定・学位授与方針（DP）に明示した学生の学習成果を適切に把握および評価するための卒業生・就職先への意見聴取に関しては、包括的な調査には至っていない点に課題がある。これは、今後の改善点のひとつである。
長所・特色 <箇条書き>	
特になし	
留意点 <箇条書き>	
*各項目に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし	

ピアレビュー委員会（第2部会）

2018年度（対象年度：2017年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	人文学部
--------	------

基準5	学生の受け入れ
-----	---------

総評

0501 卒業認定・学位授与の方針（DP）および教育課程編成・実施の方針（CP）に定めた教育を踏まえた入学者受け入れ方針（AP）を大学ホームページ、入試要項で統一した齟齬のない形で社会に対して公表しており、評価できる。[0501・0502a][0501a-f]

0502 APに基づいて入試種別ごとに求める人間像を明記しており、CPと合致した試験形態となっている。また、AOポートフォリオ入試については、学部内で充分意思疎通を行った入試を行っている。[0501a][0502・0504a]

他の入試については、学部の入試・選抜委員会で責任所在を明らかにした体制を整備しており評価できるが、入試・選抜委員会における選抜過程記録が学部内に残されていない点は改善を要する。

0503 学部全体として、設定された入学定員、収容定員に基づいて在籍学生数を管理していることは評価できる。ただし、学科により、入学者の充足率にばらつきがあり、志願者を増やす努力が必要である。[0503a][0503b]

0504 学部内委員会に置いて“エビデンスに基づいた”定期的な検証を行っていることに対する根拠資料がないため、今後改善が必要。

長所・特色 <箇条書き>

0502 (2) AOポートフォリオ入試を「最も顔の見える」選抜方法と位置付けて各学科が独自の方法で、実施しており、その成果が期待できる。

留意点 <箇条書き>

*各項目に留意点レベルを記入

【A】・・・緊急の改善を要する事項

【B】・・・検討を要する事項

0503 (1) 入学者数の安定確保を実現するために、志願者を増やす方策を検討する必要がある。【B】

ピアレビュー委員会（第2部会）

2018年度（対象年度：2017年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	人文学部
--------	------

基準6	教員・教員組織
-----	---------

総評

0602 教員組織の編成に関して、大学設置基準の人数は満たしているが、日本語日本文化学科、心理学科において、退職、育児休暇などのために教員数に不足が生じている。また、教授の数が多く、准教授・講師が少ない年齢構成となっており、若手教員が少ないと現状を分析している。[0602b]

0603 「中部大学教員資格基準」などにに基づき教員の募集・採用・昇格等を適正に行っており、規程に従った適切な教員人事を実施していることは評価できる。[0603a][0603b]

0604 人文学部FD委員会を設置し、FD活動を組織的に実施している。また、前年度末に次年度の重点目標を設定し、全学のFD委員会の点検のもと、当該年度のFD活動を実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上に繋げており、評価できるFD活動である。[0604a][0604b][0604c]

0605 教員組織の適切性について、「教育・研究活動に関する実態資料」をエビデンスとして教員組織の適切性を評価しているとあるが、カリキュラムとの対応、学生の授業評価なども加味したより詳細な点検が望まれる。[0605a]

長所・特色 <箇条書き>

0602 女性教員の増加に向けて努力をしている点は高く評価できる。

留意点 <箇条書き>

*各項に留意点レベルを記入

【A】・・・緊急の改善を要する事項

【B】・・・検討を要する事項

0602 公認心理師育成に対応するカリキュラムに必要な教員の強化、退職などによる教員減への対応策が必要である。【B】

ピアレビュー委員会 (第2部会)

2018 年度 (対象年度 : 2017 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	人文学部
--------	------

基準7	学生支援
-----	------

総評

0702 (2)(4) 学生の修学、生活について、大学全体として実施している学習支援室、留学プログラム、学生相談室などの存在をオリエンテーション時などに学生に周知している。また、ゼミの指導教員が補習、補充教育について個別対応している。[0702a-f]

成績不振者および学生の相談については指導教授が当該学生を呼び出して、指導を行っており、これらの学生の修学、生活への支援について一定の評価ができる。特に、英語英米文化学科で、学生が興味を持っている業種の外部講師、卒業生を招いて月1回程度のセミナーを実施している点は評価に値する。[0702j][0702n][0702o]

0702 (5)(6) 各学科のキャリア開発委員がキャリア支援課と連携して、進路指導、キャリア支援プログラムへの誘導を行い、4年生の進路状況調査を毎月実施している。また、学内企業説明会では、キャリア開発委員が企業担当者と積極的に懇談し、特にコミュニケーション学科では、構成員全員で行っており、心理学科では独自に就活講座、相談会などを行っており、2017年度に就職内定率100%を達成している点は充分評価できる。[0702zd-zl]

0702 (8) 「学習教室きみいろ」に教員、学生が参加し、中学生の学習支援を行っている点は評価できる。[0702zk-zl]
このような活動の組織としてのさらなる展開が望まれる。

長所・特色 <箇条書き>

0702 コミュニケーション学科では、企業の就職支援に構成員全員が関与しており、心理学科では、独自の就活講座、相談会などを実施して学生のキャリア支援を積極的に行っている点は、高く評価できる。[0702zf][0702zg][0702h]

留意点 <箇条書き>

*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項
【B】・・・検討を要する事項

0702 不就職者数の抑制に関する対応策の検討が必要である。【B】

2018年度（対象年度：2017年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	人文学部
--------	------

基準8	教育研究等環境
-----	---------

総評

0802 教育研究活動に必要な施設設備は、コミュニケーション学科、歴史地理学科では、PC(54台)を共同利用しており、定期的に更新している。[0802a]

また、英語英米文化学科では、マルチメディアルームを活用している。さらに、コミュニケーション学科ではメディア教育センターの映像スタジオ、音響・編集スタジオを活用して教育を行っており、教育設備の整備について一定の評価ができる。[0802b]

0806 これらの各種設備・機器などの保守状況、稼働率などを点検評価し、設備の充実・更新のため、学科費で一部機器を購入するなどの努力は評価できる。

しかし、設備の老朽化およびより充実した設備・施設の拡充に対して、中期予算教育に盛り込むなどの努力は見られるが、必ずしも実現に至っていない点は今後の課題である。[0802c][0806f][0806g]

長所・特色 <箇条書き>

0802 (1) 英語英米文化学科のマルチメディアルームは講義のみならず、自習用にも設備を公開しており、学生の自習に関する良い環境を提供している。

留意点 <箇条書き>

*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項

【B】・・・検討を要する事項

0802 設備の老朽化およびより充実した設備・施設の拡充に対して、中期予算教育に盛り込むなどの努力は見られるが、必ずしも実現に至っておらず、今後、検討が必要である。[0806f][0806g] 【B】

ピアレビュー委員会 (第2部会)

2018 年度 (対象年度 : 2017 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	人文学部
--------	------

基準9	社会連携・社会貢献
-----	-----------

総評	
<p>0902(2) 全学のCOC事業として春日井市と連携した教育研究活動のほか、他学部比べて多くの生涯教育のオープンカレッジの科目の開放からも、学部全体として地域住民に対しての社会貢献を推進する体制を有しており評価できる。[0902a][0902b][0902c]</p> <p>心理学科での「学習教室きみいろ」の活動は、学生を取り入れた地域連携の特色的な取り組みと考えられるが、学部学科で共有することで組織として取り組みの一環となるような形を検討されることが望ましい。[0902h][0902i]</p> <p>0902(3) 地域交流事業の取り組みについては、いくつか実施されており評価できるが、今後の課題に挙げられているように地域交流・国際交流事業への学生および教員、学外者の参加を促す取り組みも望まれる。</p> <p>以上のことから、基準9の社会連携・社会貢献に関する取り組みについて多くの実績が認められる。一方、そうした取り組みへの参加者の増加策や、教育研究成果の社会への還元の効果を測られるとよい。</p>	
長所・特色 <箇条書き>	
<p>0902「学習教室きみいろ」については、社会のニーズにマッチした活動であると評価できる。[0902h][0902i]</p> <p>学部、学科としての情報を共有し、組織としての取り組みとされるような形に検討していただくと強みとなる。</p>	
留意点 <箇条書き>	
*各項に留意点レベルを記入	<p>【A】・・・緊急の改善を要する事項</p> <p>【B】・・・検討を要する事項</p>
特になし	

ピアレビュー委員会 (第2部会)

2018 年度 (対象年度 : 2017 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	人文学部
--------	------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

総評

1120 (2) 教授会、主任会の定例開催・議事録の共有が明示されており、適切に行われていると判断できる。
[1120a][1120b]

一方で、学部下にある委員会活動については触れられておらず、検証が困難である。

ほとんどの学科でも定例の学科会議や臨時学科会議が開催され、議事録も共有されている中、コミュニケーション学科では、定期的な学科会議の開催が行われていない。[1120c~1120g]

学科内の教育研究・学内外行政に関する情報共有や意思決定を行う場が不明確であり、議事録についても「要点筆記」形式の議事録ではなく「全文記録」であることから改善の必要がある。[1120e]

課題事項で2点(会議の開催、議事録について)が挙げられているのに対して、向上・改善の進捗状況において「特になし」ではなく、即座の改善の取り組みが望ましい。

歴史地理学科の長所・特色のように、委員会活動における改善・向上の取り組みを期待する。

以上のことから、基準 11 に関する人文学部の委員会活動の検証においては、適切に行われていると判断できなく、改善すべき点があると判断する。

長所・特色 <箇条書き>

1120 挙げられた「歴史地理学科の議事録の作成・確認の手続きをとおした学科管理運営に対する構成員のイニシアチブを活発化させている」ことの成果がみられるとよい。

留意点 <箇条書き>

- *各項目に留意点レベルを記入
- 【A】・・・緊急の改善を要する事項
- 【B】・・・検討を要する事項

1120 学部下の委員会活動についての明示がないため、次年度に向けて学部下の委員会の自己点検・評価を実行されたい。【B】

1120 コミュニケーション学科：学科会議の定例開催を基本とした改善が必要である。【A】

1120 コミュニケーション学科：これまでの「全文記録」とは別に「要点筆記」形式の議事録を早急に改善されたい。【A】